

特別講演 2

「老化と皮膚」

アオキクリニック院長

二宮 文乃 先生

【皮膚と脾胃】

哺乳動物は外側は皮膚で被われ内側は空洞の消化器の粘膜に被われている。皮膚を外臓、粘膜部を内臓といってもよいわけで、共にバリアー機能に包まれて体内環境を常に一定に保っている。

皮膚は大気の乾燥から体を保護し、多くの微生物や外部の侵襲に対応する防衛機能を担っている。

一方、消化器粘膜の重要な機能は生体の生命維持や次世代の生命を生み出すのに必要なエネルギーを獲得するために、摂取した食物を消化吸収することである皮膚の表皮、消化器粘膜上皮ともに免疫を司る器官である。

【皮膚疾患の治療法】

殆どの皮膚疾患は表面の治療をするだけでは治らない。そこで本治と標治が必要となる。

本治では気血水が夫々の五臓に働き、機能しているわけで、皮膚炎は何れかの五臓、気血水のバランスが崩れると発生すると考える。

皮表・五臓六腑（裏）は自律神経（経絡）を介して関連しあっている。

デルマトロームという疾患名が皮表と裏の何れかの臓器と同時に発病するものがある。

一方、裏の臓器と皮表は間接的に影響し合って発病する疾病がある。

人間の老化は内外ともに進行するが老化に伴う諸疾患と皮膚の関連とこれらの関連を提示する。